

発掘だより

H 21. vol. 3 2009.11月

— 勝瑞館跡第15次発掘調査 —

今年度の発掘調査も終わりに近づいています。

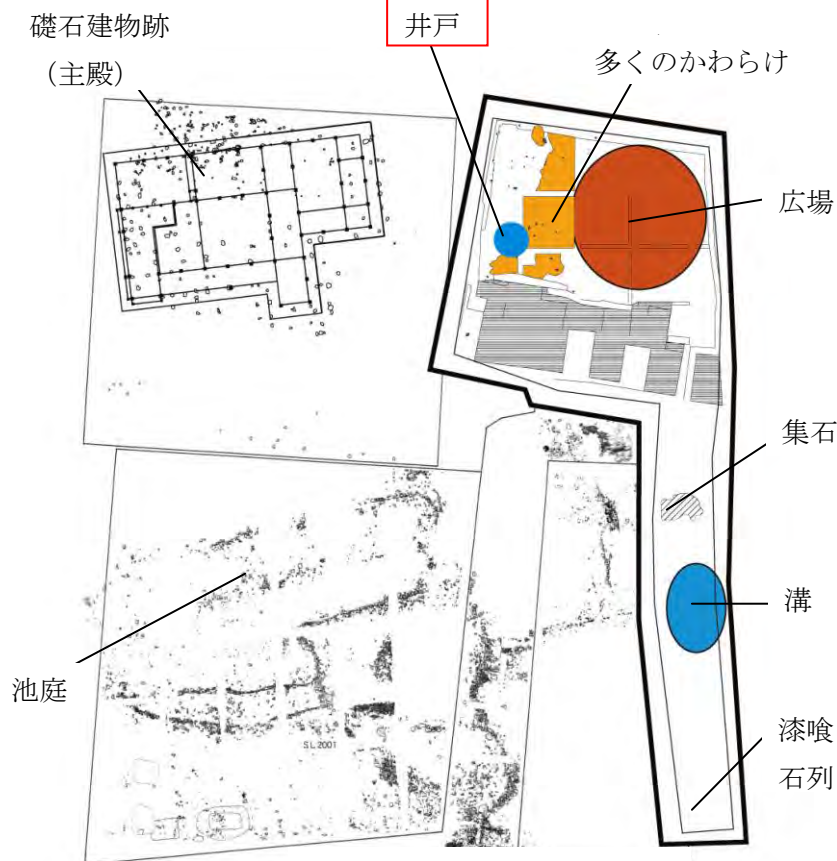
今回の発掘だよりでは、終盤に発見された2基の井戸をとりあげてみましょう。



Ⅱ区の井戸、西から撮影 底に井戸枠が出土している

井戸の一つはⅡ区の西部分で発見されました。当時の生活面から0.9メートルほど掘り下げたところで、瓦の井戸枠が出土しました。完形の平瓦を立てて円形に並べられています。何段にも積み重ねられていることが考えられますが、2段目の瓦まで確認できています。

底の井戸枠 円形に並べられた瓦



Ⅱ区と付近の過去の調査区
(東勝地 2.3.7.8 次)

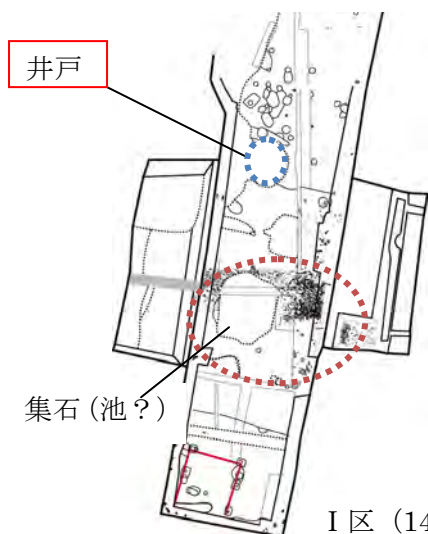
このような瓦組の井戸枠が多く作られるようになるのは、専用の井戸瓦の製作が始まってからだといわれています。15世紀後半に堺で始まり、近世には大坂を中心として普及したようです。

この井戸は、掘り方の上面に16世紀後半の土器だまりが検出されていることから、それ以前に掘られたものであることがわかります。

徳島県内の他の遺跡からもこのような瓦組の井戸が見つっていますが、すべて江戸時代以降のもので、勝瑞には早い時期にこうした技術が入ってきていたようです。堺とのつながりが考えられるのではないのでしょうか。

もう一つの井戸は、Ⅰ区で発見されていました。

下は埋め戻し前のⅠ区の様子です。写真右奥の大きな石でふさがれた穴が井戸です。昨年度の調査ですでにみつかっていましたが、Ⅱ区の瓦井戸の発見をうけ、あらためて調査されました。



Ⅰ区 (14次調査区含む)



Ⅰ区、東から撮影



左列の写真はⅠ区の井戸の様子。上から下へ掘り進んだ状態をそれぞれ撮影したものです。

最上面では大きな石の端から つぶされた瓦が重なっている様子がうかがえます。石を取り除いたあともしばらくは 瓦が乱雑に重なっていますが、下へいくほど完形のモノが多くなり、地表より1.5メートルほど掘り下げたところでは ついに井戸枠の全形が現れました。



下の2枚の写真を比べてください。右はⅡ区に出土したものです。よく似てますね。時代も同じ頃と判断していいのでしょうか？出土遺物がほとんどないので判断に苦しむところです。

当時おそらく最新式の 井戸が作られた経緯や、それがどうして石でふさがれることになったのか、等々 かつてこの地にくらした人々への興味は尽きません。時代もあわせて、今後の研究が待たれます。



Hiroko K

Ⅱ区で出土した井戸枠

